



リスチャンのために何か言葉をください。その言葉を日本のクリスチャンにおみやげとして持って帰りたいのです」

F・Bマイヤーといえば、当時、世界でもっとも有名な説教家のひとりだった。彼の聖書講解書は、今も世界各国の言葉に翻訳されて読まれている。

この世界的説教家が、どんな言葉をくれるだろうか。木村牧師は期待をふくらませて待っていた。するとマイヤーは静かにこう言った。

「イエス様には『はい』と言いなやう」(Say "Yes" to Jesus.)

木村牧師は、あまりに単純なその答えに驚いたことだろう。したがってイエスも、たくさん

「あなたにわたしを愛しますか」と問われたイエスは、ただ自分に対する愛がペテロにあるかどうかだけを確認されたのである。イエスが彼に要求されたのは、それだけであり、それでぜんぶだった。

ペテロの人生は、そのことにか

かっていたからである。(続)

### 今日の礼拝

○第一礼拝は午前10時から、第二礼拝は午前11時から。○教会学校は午前10時から。○説教は林田はるかさん。

### 先週の礼拝

司会は合志文利さん、奏楽は吉岡裕美さん。

説教は第一サムエル記九章からサウルと預言者サムエルとの出会いについて話しました。

もしその出会いがなかったら、彼は、故郷、ベニヤミンの地で、勤勉な一農夫として、後世にその名を残すこともなく、平凡にその生涯を終えたことでしょう。

ところがサウルは、その出会いによって歴史の舞台に登場します。私たちがクリスチャンになったのも、そのようなふとした出会いによったのではなかったかと語りました。

### 先週の出席

礼拝参加者は、第一礼拝が三八名、第二が四二名、合計八〇名(男二八、女五二)。それに子どもが九名、合わせて八九名でした。

### 報告

○礼拝後、説教者の会が開かれ、ともに祈りました。参加者は岩崎宏志さん、坂田壮一さん、江藤洋子さん、西岡潤也さん。若い説教者の成長のために祈りください。

○能登半島大地震の義援金の合計は一二万二千元。大津町役場を通して現地に送りました。感謝。

### 牧師身辺

一月二六日(金)に弟の同級生で東京在住の隈部章子さんという人が、訪ねてきました。

何年前か、ぼくの母が亡くなったとき、県外に住む弟の同級生たちからも香典が送られてきたので

すが、弟はすぐに静岡に帰ったため、返事をするのはぼくの仕事となり、お礼の文書に加え、告別式で私が語った母についての文章もいっしょに送ったのです。お礼ですから、返事は期待していませんでした。

ところが隈部さんははいねいな返事をくださったのです。それは母についての文章に感動したこと、そしてキリスト教に関心があることなどが書かれていました。そこでぼくの書いた本を送ると、またその感想を送ってくれました。そうやってしばらく文通が続いた頃に、千葉から八王子の高尾に引っ越すことになったとあったので、ぼくの友人が多くなる日野教会を紹介したのです。彼女はすぐに行ってくれました。やがて信仰もち、今では熱心に教会に通っているそうです。そこで熊本に帰ったら、ぼくをどうしても訪ねたいというので、同級生五人とともに来てくれたというわけです。これもまた不思議な出会いです。